

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名)

事業所番号	0272100843		
法人名	有限会社 清修会		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	青森県つがる市木造有楽町2番地1		
自己評価作成日	平成22年11月8日	評価結果市町村受理日	平成23年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは1階はスーパーになっており買い物に便利です。周辺環境にも恵まれており買い物はじめ外出支援など、地域住民の一員としてこれまでの暮らしが継続できるように支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者・職員が一つの大家族としてお互いカバーし合い、地域住民と交流を図りながら、安心して暮らせるホーム」という独自の理念を掲げている。職員は利用者の思いや希望、意向を把握するよう努め、家族のような信頼関係を築いて笑顔で楽しく暮らしていけるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.aokaigoivouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0272100843&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成22年12月20日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の1/2くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>日々、入居者の方々を職員自身の家族と思い、体調に気を配りニーズに沿ったサービス提供が行われているかを振り返るように努めている。</p>	<p>「利用者・職員が一つの大家族としてお互いカバーし合い、地域住民と交流を図りながら、安心して暮らせるホーム」という独自の理念を掲げ、家族のような信頼関係を築いて笑顔で楽しく暮らしていけるよう支援している。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>好天の日是一緒に階下、或いは近所の商店街に出かけ顔なじみになり、会話を交わしたり、近所の保育園児たちとの交流もしている。</p>	<p>事業所の代表が経営している商店が向かいにあり、ホームに入居している利用者は地域の一員として近隣の方と触れ合っている。散歩に出かけた際は地域住民との会話を楽しんだり、日常的に交流を図っている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>日々変わる認知症状に戸惑いを感じられる時はホームでの本人と職員との対応、かかわり方を説明し安心できるように対応している。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議に参加して頂き、その意見を日々の仕事に反映できるようにしている。</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、出席者の質問には随時対応している。会議では自己評価及び外部評価の結果や改善計画について報告している。委員の意見についての対応策を伝える等、積極的に意見交換し、サービスの質の向上を図っている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>定期的な運営推進会議での報告の他、判断に窮する時は相談している。</p>	<p>広報を市役所・警察・商店街へ配布し、地域包括支援センターの職員にも常に協力を仰いでいる。必要に応じて、利用者の生活の質を高めるための課題解決に向けて、日頃から行政との連携を図っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>入居者様個々の心身状況に応じて安全面を第一に危険回避の方法を職員、本人と十分考慮してケアにあたっている。</p>	<p>管理者・職員とも、身体拘束には理解をしているが、帰宅願望の強い入居者がいるため、非常口に鍵が24時間施錠されている。利用者の外出傾向を察知した時には、職員が付き添う等の支援を行っている。また、近隣との協力体制を確立し外出傾向のある方の理解を深めるよう努めている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎日の入浴介助時や排泄介助時の身体面の観察を通してや日頃の入居者様への声掛けが適切であるかを常に意識して行っており、不適切だと思われる際には指摘し、適切な対応に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、必要と思われる入居者様はいないが、その様な事態に至ったときはスムーズに活用できるように努める。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申し込み時に施設の方針、利用料、対応方法等を詳しく説明すると共にホーム内の見学を行い、相手からの質問に答え入居についての不安の解消になるようにしている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で出席頂いたご家族様から意見を頂ける様にしたり、訪問時には近況の報告をしホームへの要望、意見を伺っている。</p>	<p>本人が職員に言えないことを家族に伝えていたり、家族から本人の訴えを確認することもある。毎月、請求書と一緒に普段の様子を伝えるように文書で通達している。要望や苦情等は家族から伝え聞いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートへの個々の職員の意見の記載、申し送り時、月1回の職員全員参加の会議での意見交換を行っている。	月1回は全体会議を行い、職員から意見を聞くようにしている。出された意見はその都度対応し、改善できるよう取り組んでいる。1ユニットなので、職員異動はないが、新しい職員が来た場合は、利用者を与える影響を最少にするための配慮を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく、個々に話を聞き改善に努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会話、日常のケア方法を把握したうえで必要と思われる研修を組んだり、或いは自ら希望する研修への参加の機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会を通して他施設でのケア内容についての情報交換を行い改善すべき点、取り入れるべき点等を見極めより良いサービス提供が出来るように取り組んでいる。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を通して真の意向をくみ取るようにしており、全職員がコミュニケーションに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意向を全職員で共有し、安心して頂けるように傾聴に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応が常に出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、他の入居者様も含めて一つの大家族として負担にならないように日常生活を協力して行うように声を掛け合いながら行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係が希薄にならないように努め、家族訪問をお願いし、気持ちを共に把握し、家族もケア方法に戸惑わないように対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の近所の方、親族との行き来が従来どおり行えるよう訪問を勧めたり、共に外出を行ったり、自宅で気軽に会えるように支援している。	入居前まで親しくしていた近所の方や、知人等との電話や手紙での連絡を取り持つ等の支援をしている。また、馴染みの商店等への関係を保てるように、時には家族と協力しながら外出支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性、性格等を考慮しつつ声掛けしたり、職員が仲立ちとなりレクリエーション、外出支援等交流を図れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、そのような事例はない。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話、コミュニケーション等を通して日々把握に努めている。	本人の訴え、表情・態度等の変化を十分観察し、希望や意向を把握するよう努めている。必要に応じて家族の希望にも耳を傾け、コミュニケーションを大事にして良い関係を築けるように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様本人からはもちろん、ご家族様、居宅支援等可能な限り情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身状態に変化ある時や、入居者様、ご家族の意向に沿って柔軟に計画を見直し介護計画を作成している。	介護計画作成時には、利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、本人の意向、家族の意見等を踏まえ、全体会議を行い、的確な計画が出来るように心がけている。実施期間に関わらず、利用者の身体状況の変化や、利用者や家族等の希望の変化時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りや職員で共有が必要と思われる事柄については記録し、計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>不定期であるが、近所の保育園児や童謡のボランティア等の交流を楽しんだり、地域での催し物に出かけ楽しんでいる。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期、不定期に関わらず体調管理のために随時受診介助を行っている。</p>	<p>これまでの受療状況を把握し、これまでかかっていた医療機関へ受診できるよう支援している。それぞれのかかりつけ医と相談して、体調の変化や受診希望には即時対応できるような体制を築いている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常に連絡がとれる体制にあり、個々の体調に関するチェックポイントを押さえながら毎日健康管理に努めている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には情報提供書を医療機関に提供し入院後もお見舞いに伺い、御家族様、医療機関との情報交換をし、早期退院に向けた相談や連携を図っている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの指針を定めている。入居者様、御家族様に説明し文書で同意を得ている。但し、意向に変更があれば、その変更に沿うべく医療機関受け入れ等の支援に努める。</p>	<p>重度化した場合における(看取り)の指針を定め、入所時に説明し、同意を得ている。重度化した場合に備えて、家族・関係者・かかりつけ医等の連絡や対応、急変時の処置の仕方等、緊急支援のための意思統一をしている。</p>		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の緊急連絡網はじめ緊急時対応マニュアルを作成して緊急時に備えている。応急手当については講習会に参加して職員の周知を図っている。			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日中及び夜間を想定して避難誘導訓練を入居者様、職員と一緒にやっている。	職員と利用者が一緒に日中と夜間の訓練を年1回ずつ行っている。緊急時対応マニュアルに沿って行われるが、夜間の避難態勢での近隣の協力体制が確立されていない。また、食糧は確保出来ているが、防寒具等の準備がされていない。	定期的に避難訓練を実施しているが、夜間の避難を勤務職員のほかに近隣の住人等にも手伝ってもらえる体制及び、食料や防寒具等をすぐ持ち出せるような体制の構築を期待したい。	
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話しやすい環境作りに努め、ゆっくり丁寧に話しかたり、強要はしないように個人の意見を尊重して対応している。	利用者の言動を否定したり拒否せず、受け入れるようにしている。全ての入居者からの訴えや要望に耳を傾け、耳元で軟らかい表現で話し、羞恥心に配慮している。また、個人台帳などは入居者等から目に付かないようなところへ置き、守秘義務や個人情報の取り扱い等に配慮している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日、コミュニケーションに努め、思いや希望が話しやすい環境作りを心かけ、会話時はじっくり相手の返答を待つようにしている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、変る心身状態や気持ちの変化に柔軟に対応できるように、一人ひとりのペースで心地よく生活出来る事を最優先に考えて支援している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの容姿にするため、希望に沿って美容院へ外出支援したり、受診時に好みの服装にするため更衣介助したり、化粧品がなくなったら代理で購入する等、支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の得意、不得意を考慮し、一緒に盛り付けや片づけをしたり、一緒に食事をする事で味気ない食事が楽しく出来るように雰囲気作りしている。	利用者の好みや食べられないもの等を把握し、職員が交代で1週間ごとに献立を立てている。また、食事と一緒にすることで見守りや介助をしながら食事をしている。利用者の状況に応じて、後片付け等を促し、職員も一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食状況は毎日記録し、不足と思われる時は、体調、嗜好、時間帯に考慮して補うようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員のマウスケアを行っている。歯のある方は自身で行って頂き、職員が仕上げ磨きをしている。入れ歯は自身で洗浄できる方には声かけし、出来ない方は職員が洗浄した後で嗽をして頂いている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	摂食時間との兼ね合いをみて排泄誘導を随時行い、失禁予防を考慮している。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄状況を把握している。排泄パターンから声かけや誘導を行い、いつまでも自立した排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材、水分補給、歩行に努めたり、時には腹部マッサージを行い便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、入浴日としており、入浴時間については午前、午後と希望や体調に配慮して行っている。	入浴日や時間は定めておらず、利用者の意向を取り入れ、いつでも入れるような工夫をしている。また、羞恥心に配慮して一人ずつ入浴するようにしている。入浴拒否がある方は生活パターンをみて声をかけるタイミングを見計らうなどの工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の様子を観察し、疲れがあったり体調不良があった場合等には居室で休んで頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が変更になった時や臨時薬が処方された時は職員全員で把握し内服確認も行っている。その効果についても把握し、受診の見極めを行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力、意欲に応じて一緒に洗濯物を干す、たたむ、仕分け、配分を考えながらの盛り付け等を一緒に行ったり、花の水やりを行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物したい場所に同行したり、自宅で過ごしたい方には家族の協力の下、自宅で一緒に過ごして頂けるように送り迎えをしている。	「花がいっぱいあるところ」「静かな公園」等、利用者が行きたい場所を聞き、意向に沿って外出支援している。天気の良い日や季節を感じられる日に平均30分程度を目安に入居者の希望に沿った散歩を行っている。必要に応じて家族にも協力してもらい一緒に出かける時もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	購入したい物がある時、代わりに支払いしたり、おつりを支払う際の手助けをしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎをして椅子を配置してリラックスできるようにしたり、自分では出来ない方に職員が代行したり、来た手紙を本人の了解を得て静かな場所で代読したりしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度等）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、ホール、玄関は季節感を出すように模様替えしたり、食事席は入居者同士の相性を特に配慮している。トイレ、洗面所は特に気持ちよく使用して頂ける様に清潔に努めている。	広いホールを活用して常に見渡せる距離に椅子やソファが設置されていて、ゆったりとくつろげるようになっている。また、ジュースが敷いてあり、歩く音が不快にならないようになっている。毎月ホール内の飾り付けを替え、季節を感じてもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの座る場所に配慮したり、外の景色を感じてもらえるように窓際にソファを置いている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた気分になれるように自宅で愛用していた物、馴染みの物を置いたり、スナック写真を飾ったりしている。	馴染みのものを持って来るよう家族に促している。居室には調度品や馴染みの物を配置し、スナック写真を飾ったり、利用者の好みで配置換えを行ったり、それぞれに合った居室作りがされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目の悪い方が移動しやすいようにトイレ内の手すりに目立つ赤いテープを張ったり、自分の部屋が分かり易いように部屋毎に入口に変化をつけたりして工夫している。			